

愛知学院大学歯学部倫理委員会

平成 29 年度第 6 回会議 次第

平成 30 年 3 月 22 日（木） 15 : 00～

I. 報 告

1. 平成 29 年度第 5 回倫理委員会議事録（案）（平成 30 年 1 月 18 日）
2. 条件付承認（委員長決済）について（2 件）
3. 研究等変更審査申請書（7 件）
4. 研究等終了報告書（5 件）
5. その他

II. 協 議

1. H30 年度歯学部倫理委員会開催日について
2. 新規申請の審査（1 2 件）
3. その他

	氏名	所属等	委員区分(選出母体)	任期
	本田 雅規	口腔解剖学講座教授	規程第4条(1)基礎系講座専任教員	30.4.1～31.3.31
	池田 やよい	解剖学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
	長谷川 義明	微生物学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
○	前田 初彦	口腔病理学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
◎	千田 彰	保存修復学講座教授	規程第4条(2)臨床系講座専任教員	30.4.1～31.3.31
	武部 純	有床義歯学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
	野本周 嗣	外科学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
	松原 達昭	内科学講座教授	〃	30.4.1～31.3.31
	高木 敬一	法学部教授	規程第4条(3)学識経験者	30.4.1～31.3.31
	黒神 聰		〃	30.4.1～31.3.31
	柿田 憲広	金城学院大学非常勤講師	規程第4条(4)一般人	30.4.1～31.3.31
	鏡山 典子	愛知教育大学教育 学生・国際課 なんでも相談室	〃	30.4.1～31.3.31

平成29年度 第6回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

1	実施責任者	佐藤 曾士
	研究課題	15歳以下の小児における麻酔覚醒状態とCKIに関する研究
	概要	<p>麻酔科学領域で重大な合併症の一つとして“悪性高熱症”があり、これは10万に1~2人の頻度で発症する。わが国における劇症型悪性高熱症の発生総数は1960年から現在までに、400症例を超える。本疾患は遺伝性骨格筋疾患であることより、潜在的な素因者は相当数あると推察される。死亡率は1960年代の70~80%から2000年以降には15%程度にまで減少し、さらに、特異的治療薬のダントロレンを使用した症例の死亡率は10%以下に低下している。悪性高熱症の素因者は骨格筋の収縮に必要なカルシウムの貯蔵庫である筋小胞体から細胞質内へのカルシウム放出機構が異常に亢進していることが知られている。悪性高熱症の誘発薬剤としては、全ての揮発性吸入麻酔薬及び脱分極性の筋弛緩薬があり、これらの薬物は筋小胞体からのカルシウム放出速度を亢進させる。その結果、骨格筋細胞では筋収縮が異常に持続し続け、骨格筋の破壊と大量の熱が産生される。</p> <p>筋肉の障害を示す簡便</p>
2	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
3	実施責任者	渡邊 哲
	研究課題	閉塞性睡眠時無呼吸症患者における顔面骨格、咽頭形態の検討
	概要	公表不可
4	実施責任者	宮地 斉
	研究課題	顎矯正手術の術後出血量に関連する因子の検討
	概要	公表不可
5	実施責任者	佐久間 重光
	研究課題	口腔領域への一過性および持続性疼痛刺激時における前頭葉血流動態の評価
	概要	公表不可

平成 29 年度第 6 回歯学部倫理委員会議事録

日 時：平成 30 年 3 月 22 日（木） 15 時 00 分

場 所：歯学部基礎教育研究棟 第 1 会議室

出席者：千田、池田、武部、原田、松原、前田、黒神、高木、柿田、鏡山

（欠席：戸苅、本田）

報 告

1. 平成 29 年度第 5 回倫理委員会議事録について

委員長から、資料により報告があり、原案どおりこれを了承した。

2. 条件付承認（委員長決済）について（2 件）

3. 研究等変更審査申請書（7 件）あり、「承認」（7 件）とした。

4. 研究等終了（中止）報告書（5 件）

5. その他

協 議

1. 平成 30 年度歯学部倫理委員会開催日（案）について

委員長から提案され、開催日案について一部修正のうえ承認された。

2. 倫理審査について

委員長から提議され、今回新規 12 件の申請があり、それぞれについて実施責任者または分担者から研究概要の説明を受け判定したい旨述べられた。

審査結果について歯学部倫理委員会規程第 6 条 4 項に基づき、出席委員の 3 分の 2 以上の合意によるものとし、委員長が取り纏めて審査判定を行うこととした。

12 件の審査判定について、「承認」1 件、「修正の上承認」10 件、「不承認」1 件とした。

3. 倫理審査申請書の雛形の作成について

研究の倫理的配慮の表現について、具体的に「連結可能、不可能匿名化」という表現ができないとなったため、今回の雛形変更はまずはこの部分についてのみ行うこととし、大幅な改定は時間をかけて検討することが提案され、了承された。なお文字、表現の改定や誤字・脱字などについては適宜行う。

閉 会：19 時 48 分

次回委員会について

日時：平成 30 年 5 月 17 日（木）15 時

所：楠元キャンパス 1 階 第 1 会議